

<国語の調査結果に見られる特徴と現状>

問題形式では「記述式」、内容では「話す・聞く」が特に県平均や全国平均を下回っている。問題をしっかり読んで内容を理解し、指定された条件に合わせて解答することに課題がある。

一方で、県や全国平均を上回るまではいかないが、「書くこと」が比較的良い結果だった。普段の授業でも書くことに抵抗がない児童が多い。自分の考えを表現する力はあるので、問いに合わせた答えた方ができるようになっていくことで、国語またはそれ以外の教科でも学力向上につながっていく。

<算数の調査結果に見られる特徴と現状>

内容では「データの活用」が県や全国平均を上回っている。

問題となっている場面が本校の特別活動とも近いことから、体験が学力向上につながっていると考えられる。教科書に記載されていることだけではなく、多くの体験活動を通して児童の学力を向上させていく。

問題形式では「記述式」が県や全国平均を下回っている。問題を解くことができても、それを説明することが難しい傾向にあるので、繰り返し取り組んでいく必要がある。

<理科の調査結果に見られる特徴と現状>

国語や算数に比べて、正答率が全国や県より低い。どの問題形式でも傾向は変わらないので、内容の理解に課題がある。特に生命に関する問題の正答率が低い。

<学校質問紙調査の結果に見られる特徴と現状>

教科指導、授業改善、生徒指導は良い。一昨年度から週1回、下校時刻を早めて「教材研究日」を設けたことにより、教職員が学年内で指導計画を細かく立てたり、重点的に指導したいポイントについて話し合ったりすることができている。しかし、国語科の指導について課題があるので、改善していく必要がある。ただし、昨年度から1人1台端末配置によるICT研修が増えたことも影響しているので、実状にあった校内研修を計画的に実施していきたい。

家庭や地域との連携が大きく向上した。3年近く新型コロナウイルス感染症の影響で、従来の活動ができなくなったが、新たな方法で再開し始めたことが結果に表れている。

<児童質問紙調査の結果に見られる特徴と現状>

基本的な生活習慣が整っていて、何事にも前向きにとらえている児童が多い。全体的に肯定的な回答が多く、児童の素直さを伺うことができる。また、タブレット端末の重要性を理解し、積極的に活用していることがわかる。

その一方で学力への関心が少し低い。意欲を向上させるような工夫を取り入れたり、新しく学んだことが積み重なっていくように基礎を徹底したりしていく必要がある。

<これからの具体策>

学習面では、指定された条件を満たして文章を書く力や、自分の考えを他者に理解してもらうためにわかりやすく説明する力をつけていく。

(授業における具体策)

本調査では、とても長い問題文の中に複数の資料が含まれていて、何を問われているのか把握するのが難しい。普段の授業でも初めから噛み砕いてわかりやすく提示するだけでなく、時々、児童の力を試すような機会を設け、問題に慣れていく。

いろいろな教科や活動の中で自分の言葉で話したり書いたりする機会を作っていく。同時に友達の意見を聞いたり読んだりして感じたことを伝え合うことで、さらに話す力や書く力を伸ばしていく。効率よく伝え合う活動ができるように、タブレット端末を効果的に用いていく。

(教員の研修体制における具体策)

一昨年度から始めた教材研究日(今年度の金曜日5校時日課)に加え、昨年度から授業改善チェックシートを県教委のモデルを参考に自校で作成し活用している。今年度から国語や算数だけでなく、道徳や特別支援学級の授業でも活用している。今後も児童の実態に合った指導ができるように、教材研究の時間を確保していく。タブレット端末を用いた指導法の研修はこれまでも行ってきたが、今後もより良いものを授業内容や実態に合わせて活用できるように、研修を積極的に行っていく。